

景況レポート

(3月分・情報連絡員80名)

業況DI値僅かに回復

【概況(全体)】

3月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0%(前回調査6.3%)、「悪化」が32.5%(同36.3%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較し2.5ポイント上回った。全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は僅かに回復が見られたものの、前月に引き続き製造業・非製造業ともに全国及び東北ブロックを大幅に下回り、低調に推移した。

【業界別の状況】

建設業などで業況の悪化割合が減少したことで景況感に回復傾向が見られたものの食品製造業、小売業及び商店街では依然として景況感は低調に推移している。

なお、全体の景況感は、資源価格の上昇に伴う原材料価格上昇や運送単価高騰など経営コスト上昇の影響が依然として強く、最終財への価格転嫁が進展しない状況であることから、収益の改善は限定的となっており、中小企業の先行きは引き続き注視していく必要がある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-27.5	-14.8	-21.5
製造業	-28.2	-11.5	-19.1
非製造業	-27.0	-17.5	-22.8

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △30未満
 雷雨 △30以下

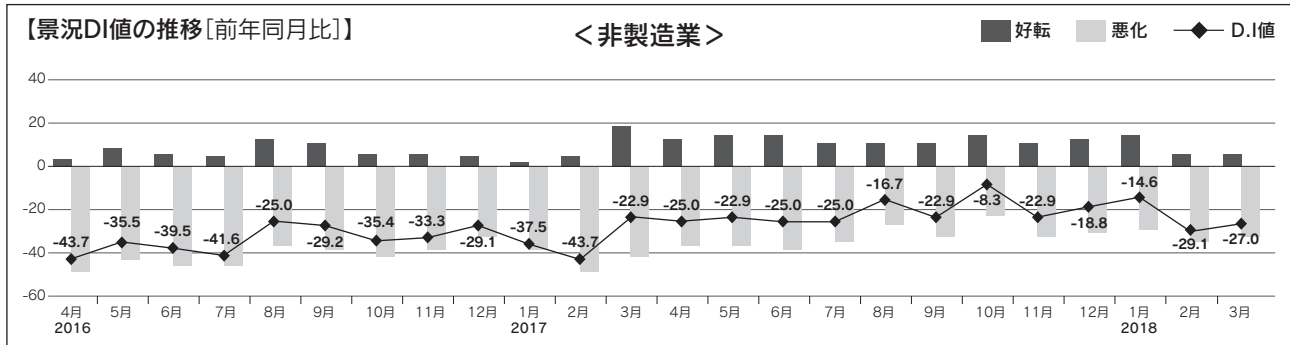
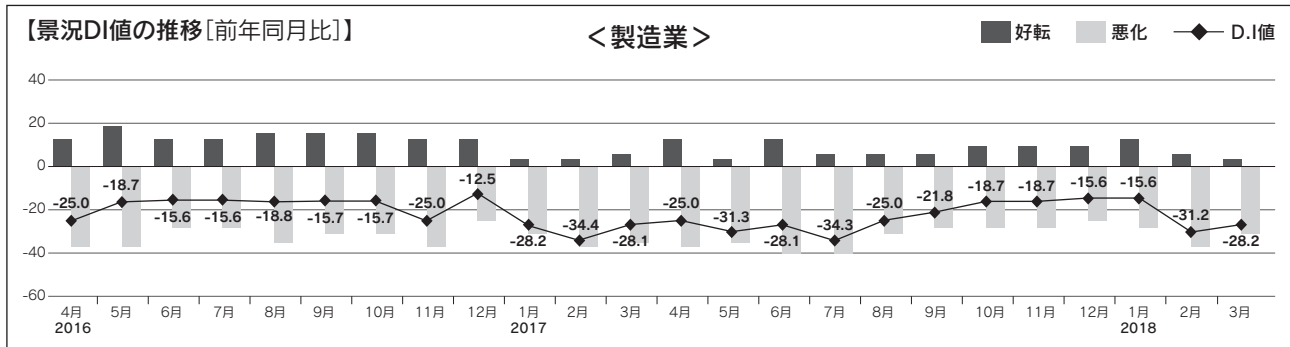
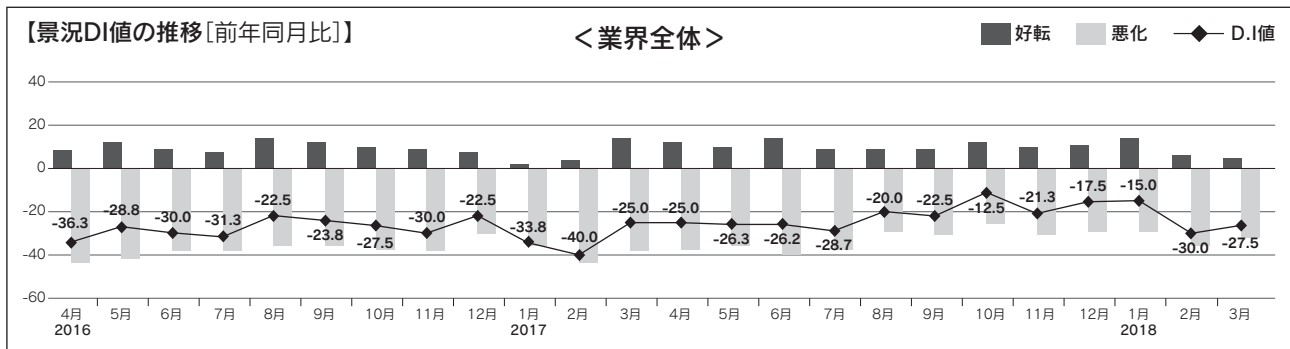
【天気図の見方】
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	スーパーへの納品価格を一部見直し値上げしたことで、発注数量が減り生産量も落ちたが、収益の改善につながる一歩となった。
食料品 (菓子)	繁忙期ではあるが原材料等の価格上昇が続き、販売価格を変更せざるを得ないなか、個人消費も低迷しており厳しい状況である。
食料品 (製麺)	月後半に天候が良くなり、また、学校が休みに入ったせいか、多少商品の動きがあった。しかし、食品業界においては人口減少が痛手である。
繊維工業 (繊維)	業界における売上状況は減少傾向にある。人口減による雇用状況も厳しくなっており、生産ラインの人員不足が課題である。(中央地区) 婦人服については定番・別注ともに受注数量が細かく、切り替えが頻繁なため生産数量も減少ぎみであり努力しているものの売上は減少している。紳士服は前年同月比では横ばいで推移している。(県南地区)
木材・木製品 (一般製材)	3月中旬より気温が上昇し、製造機械の稼働率も回復し前年並みの生産量となった。受注は1～3月停滞していたが、4～5月には回復との見方をしている。
木材・木製品 (木製家具)	製品グレードが低い発注が多く、事業所の技術力に見合った案件がない。前年同月比では受注量は減少している。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	3月の出荷数量は、前年比118.9%での推移、4月～3月累計では93.9%と厳しい数字となった。平成30年度は全県で29年度を下回る数字が想定されることから、適正価格の確保が最重要課題である。
鉄鋼・金属 (機械金属)	前月より受注の動きは鈍く、収益状況も工場稼働率も減少傾向である。民間工事の受注が落ち込んでいるようで新年度以降の公共事業に期待している。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	まだ見積依頼が少ない状態が続いており各社受注量もバラツキが多くみられる。ゴールデンウィーク明けにならないと本格的な動きがないように思われ、先行き不安定な状況にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

- | | |
|------------------|---|
| 卸売業
(青果) | 3月の売上は、前年同月比97.6%で推移した。気温の上昇に伴い、葉物野菜の生育も良く生産、出荷量が増え価格も徐々に落ち着いてきている。 |
| 卸売業
(自動車中古部品) | 3月に入り鉄価格が3回上昇、末日に1回下落した。国内は需要が安定しているが、海外が不安定である。 |
| 小売業
(クレジット) | 3月の取扱高は、前年同月比16%減となった。大型店、一般小売店ともに売上高が昨年同月より大幅に減少しており、景況が悪化している。(県北地区) |
| 小売業
(花卉) | 卸、仲卸、小売とも昨年より1割ほど売上減となっている。年間を通して前年比100%を超えた月が半分にも満たない状況で、なかなか持ち直しの兆しが見られない。 |
| 商店街 | 不況感に加え、集客力のある店舗不足によるところが大きく、小売業全般に収益は減少傾向となっている。(秋田市)

新入学シーズンで関連業種への来客による来街者が増加し、多少活気が戻ったように見える。人口減少による影響は各店の売上に反映され、収益率の確保が重要になっている。(大館市) |
| サービス業
(自動車整備) | 自動車検査台数実績では全体で前年同月比9.8%減少した。内訳は登録車が14.9%の減少、軽自動車も2.5%の減少となった。平成29年度全体の検査台数実績が対前年比で2.8%の減少と比較的低い減少率となったのは、年度前半の検査台数増によるものと考えている。 |
| 建設業
(一般建築) | 例年の公共事業に加え豪雨災害復旧工事が発注されているが、土木工事は公共事業費の縮小による影響から各社は技術者不足の状態にある。 |
| 建設業
(電気工事) | 月前半は穏やかだったものの後半は年度末完工に向けて多忙だった。特にグループホームや病院関係の電気設備と低圧の太陽光発電設備が好調だったもようである。(中央地区) |
| 運輸業
(トラック) | 軽油単価は今年度ほど高くなった年はない。まだ高止まり傾向にある。3月は引越し、また決算月とトラック、人員が不足している中で今までにない荷動きで貨物量も増えた。(中央地区) |